

**◆日当たりはどのようにすればよいのでしょうか？**

額アジサイ系は日光を好みます。山アジサイ系は比較的日光が少なくてもよく、1日中日当たりが良いと大きく育ちません。西洋系は霜をきらいますので注意しましょう。

**◆花芽はいつできますか？**

3月中ごろから株元より芽が伸び、その先端に花芽ができます。7月中ごろで花が終わり、9月下旬から10月上旬にはほぼ成長が停止します。

**◆花の色は変わりますか？**

栽培する土の酸度によって花の色が変化します。青い色の花は酸性度の強い土で、赤い色の花は微アルカリ土で、中性土ではいずれの色も鮮明に出ません。また、酸度の影響には品種によって大小があり、白系の品種にはいずれの土壌でも変化しにくいです。なお西洋系は色が変わりにくいので、本来の色に適した土を選びましょう。

**◆土はどんな土がいいですか？**

ブルー系は、赤玉土5・ピートモス3・腐葉土1・パーライト1の混合比で、株が土壌のアルミニウムを吸収しやすく、また、赤・ピンク系は、赤玉土5・腐葉土4・パーライト1の混合比でアルミニウムが株に吸収されにくくします。これはアルミニウムの作用によって色が変わるからです。

**◆肥料はいつやればよいのですか？**

固形肥料の骨粉・油かすを剪定後（お礼肥）と1～2月（寒肥）に適量あたえます。（化成肥料は避けましょう）

**◆病気と害虫防除はいつ頃しますか？**

病害虫の防除は、梅雨明け頃から害虫が多くなるので注意します。ハダニ類にはケルセン乳剤、アブラムシにはマラソン乳剤、うどんこ病にはベノミル剤、斑点病にはマンネブ水和剤をそれぞれ散布します。

**◆花後の剪定はいつ頃やればよいのですか？**

6月下旬～7月下旬、花が終わりしだい早いうちに行い、花の下から出ている新芽は来年の花になります。また、根元か下部から出ている芽もその年は咲きませんが、次年以降に花を咲かせる枝となりますので適当に残して古い枝と更新します。

（裏面に続く）

**◆毎年大きな花がみごとに咲きましたが、今年は咲きません、なぜですか？**

10月に枝の先の方についている芽に花芽ができて冬を越し、春になれば新芽が伸びて6月に花を付けます。花芽ができてから枝を切ることは、来年花になる芽もいっしょに切っていることになりすから、花がつかないのです。また、花芽ができるのは枝の先のほうの芽ですから、切り詰めることは、花芽をつみとることになるのです。枝を切るときは、花が終わってからすぐに切り詰めるようにしましょう。花が枯れたままにしておくと、株が弱り来年大きな花が咲きません。

**◆鉢植えですが樹に勢がありません。原因は？**

根づまりを起こしていると思われますので、株分けをして2つの鉢にすると良いでしょう。特に山アジサイ系は、さし木がしにくいので、この方法が良いでしょう。

**◆さし木をしたいのですが、どうしたらよいですか？**

花から1～2節目を切り、葉の付け根に新芽が出かかっているのを確認してください。穂の下部は斜めにカットし切り口を滑らかにします。葉の半分程度を切り取り水分の蒸発を防ぎます。

**◆切った後すぐにさしてよいですか？**

切った後約1～2時間水につけて水揚げしてください。その後素焼きの鉢や発泡スチロール等に鹿沼土や赤玉土を入れ5～10㍉ぐらい差し込み、風などで根元が動かないように押さえてください。

**◆さし木はどこへ置いておけばよいのでしょうか？**

直射日光を避け明るい所、あまり風のあたらないところに置きます。発根するまで肥料は与えないでください。

**◆さし木をした場合いつ頃根が出ますか？**

約1ヶ月すれば根が出ます。9月頃には十分日光に当ててください。油かすか1500倍の水性肥料を少し与えてください。

**◆アジサイの冬の手入れについてどうすればよいですか？**

地植の場合3～4年手入れをしないと、枝が込み合います。不要な枝や古根は根元で間引いて切り取り、すかしてやります。整理が終われば株の回りに溝を掘って、油かす・骨粉・鶏糞などを与えます。